



浜松の環境にあった **新築編** 省エネ住宅のすすめ



「省エネ住宅」って、冷暖房を使わずに『我慢する!』というイメージがあるな

高断熱化や高气密化など、住宅の性能を良くすることで、冷暖房の効率が上がるから、我慢しなくてよいのじゃ



と言う事は、冷暖房を上手に使えば、我慢しないで、夏は涼しく冬は暖かい快適な住環境を実現することができるのですね!



でも、建築費用が大きく膨らまないか心配だわ

確かに、建築費用は少し増えるけれど、各部屋の寒暖差が小さく、カビやダニの発生も抑えられるから体に優しいし、冷暖房費の節約ができて、住宅の耐久性も高まるから、長い目で見れば良いことばかりなのじゃ



さらに、冷暖房に使うエネルギーを減らせるから、地球温暖化対策にもなるのじゃ



良いこと尽くしの省エネ住宅を建てることにしよう!

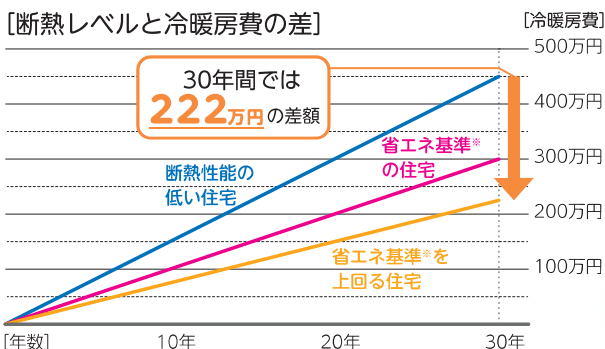


賛成～

省エネ住宅 にすると・

- ★**快適性の向上** 熱が入りにくく、逃げにくいので、家全体が、夏は涼しく、冬は暖かい快適な環境になります。
- ★**健康的な住まい** 各部屋の寒暖差が小さくなるとともに、結露減少によりダニやカビの発生が抑えられるため、ヒートショックやアレルギーなどの健康へのリスクが軽減されます。
- ★**光熱費の節約** 冷暖房の効率が良くなり、電気・ガスなどの消費量が減るため、光熱費が節約できます。
- ★**耐久性の向上** 結露による木材などの腐朽や建材の劣化が防止されるため、住宅の耐久性が向上し、長持ちします。

省エネ住宅と省エネ住宅ではない場合の冷暖房費の差は？



上図は東京にある120㎡の住宅に4人で生活した場合の冷暖房費のシミュレーションの結果です。

省エネ基準※を上回るように断熱性能を高めた場合、そうでない住宅の電気代が年間15万1千円なのに対し、年間9万8千円。より高い断熱性能を持たせると年間7万7千円まで抑えられます。1年間では大きな差に感じませんが、30年後その差はなんと222万円! 未来の家族、そして地球にもやさしい投資です。

※省エネ基準とは、平成28年建築物省エネルギー法に基づく基準のことです。
出典：一般社団法人 健康・省エネ住宅を推進する国民会議

断熱とは、熱の出入りを抑えることをいいます。

裏面もあるのじゃ



省エネ住宅の特徴

特徴 1 高断熱で高気密な家

高断熱で快適!

夏涼しく冬暖かい

特徴 2 高効率な設備の家

エネルギー使用量を削減!

暖房	削減
冷房	削減
換気	削減
給湯	削減
照明	削減

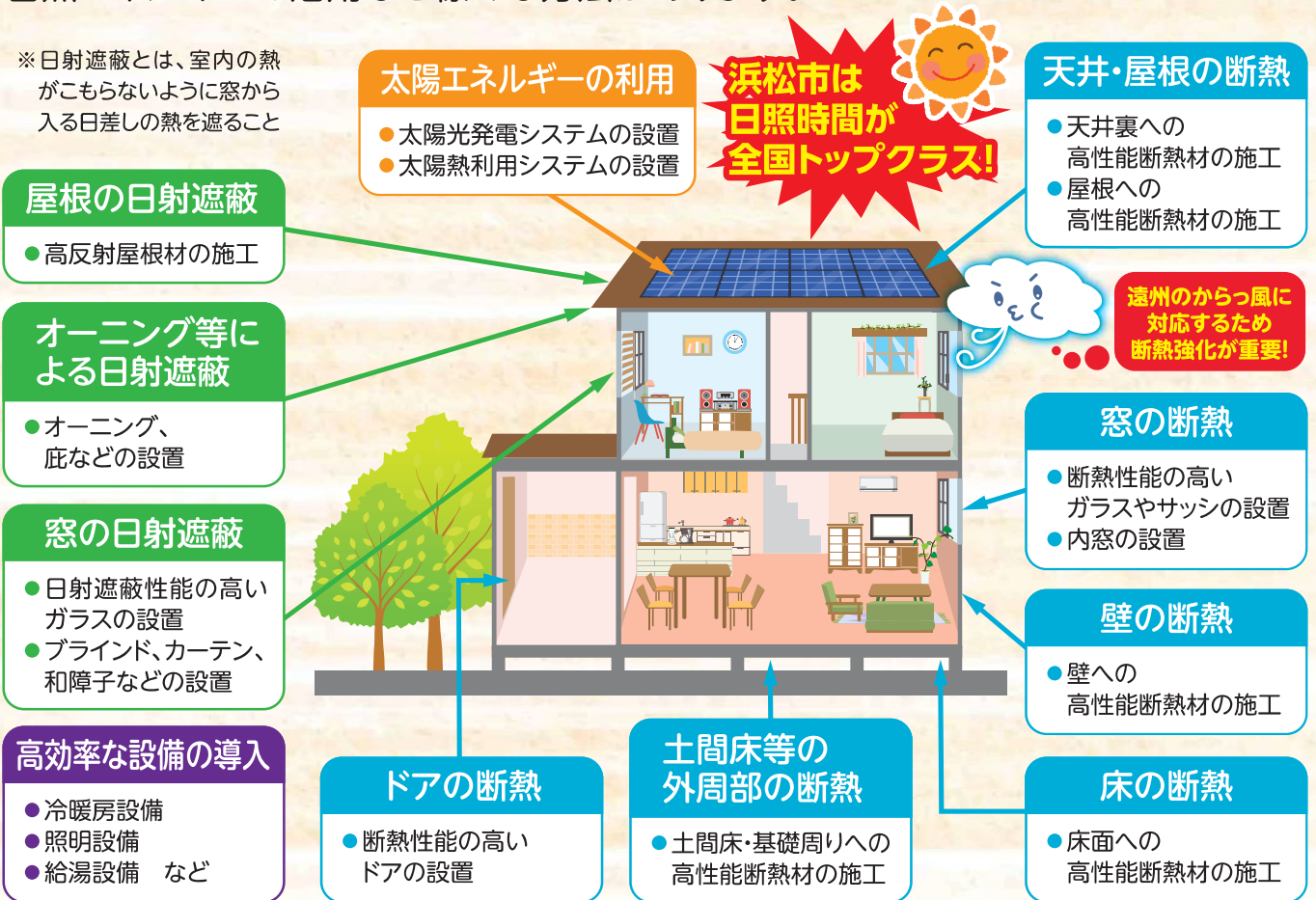
特徴 3 太陽光発電などで創エネ

エネルギーをつくる!

省エネ住宅(新築)を建てる方法

住宅の省エネ化には、断熱性の向上、日射遮蔽※性能の向上、設備機器の高効率化、自然エネルギーの活用など様々な方法があります。

※日射遮蔽とは、室内の熱がこもらないように窓から入る日差しの熱を遮ること



気密強化の方法は、建物の隙間をどれだけ少なくするかがポイントであり、気密シートと気密テープでしっかり塞ぐことで気密を確保することができます。